

「舞」

2/14(金)下市之瀬獅子舞保存会10名の方々が西小に来ていただきました。

獅子の元も地域によって違いがあり、「ライオン」だったり「いのしし」だったりすること。また、雌の獅子は鼻の色が黒く、下市之瀬の獅子も鼻が黒くなっています。『幕の舞』では、足の運びや頭を傾げるところがどこか女性的な仕草でした。獅子の体となっている布を3人の子どもたちが持ち、動きに合わせて向きを変えたり、動いたりします。もう一つの『梵天の舞』では、ねじった布を1人の子が体に巻き付け、お祓いをするときの棒を獅子が持って舞います。最初の舞と比べると大きな動きです。この獅子一式は約4kgで、獅子の頭の中にある棒を口でくわえて支えているそうです。演じている方は、一つの舞が終わると肩で息をしているのがわかります。児童の希望者(たくさんいたのでジャンケンでしたが)がお手伝いして、最後の舞を演じていただきました。

獅子舞は知っていても、実際に見たり、触れたりすることはあまりない現代です。300年続いている自分たちの地域の伝統行事に触れる貴重な時間でした。(雌の獅子舞からバレンタインデーの贈り物もいただきました。)

